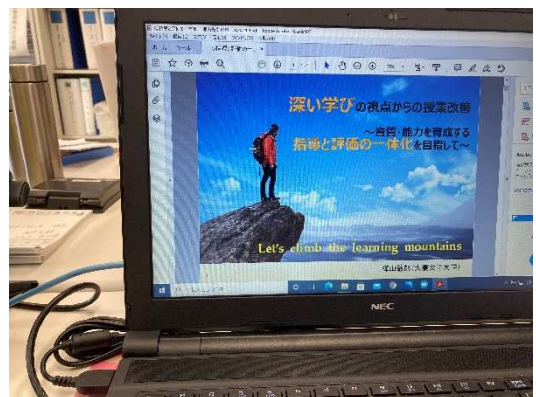


評価に関する研修会報告書

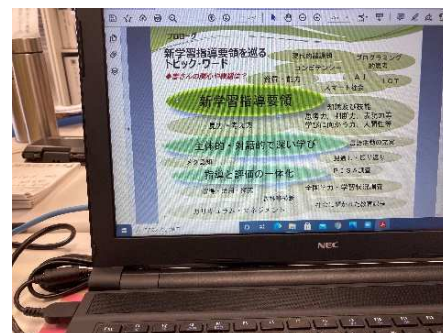
2020.11.12

日 時	2020年11月9日(水) 15:00～17:00
研 修 名	「評価に関する研修会」
研修の目的	新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」の中から深い学びに焦点を当て、資質・能力を育成する指導と評価の一体化を図る。
テ ー マ	深い学びの視点からの授業改善 ～資質・能力を育成する指導と評価の一体化を目指して～
講 師 名	樺山 敏郎 先生 (大妻女子大学 准教授)
会場・場所	北部生涯学習推進センター (研修室)
研修内容	<p>1.深い学びの視点からの授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深い学びとは? 学術的知見 ・言葉の探求に挑むために学びの文脈をつくる事ができる教師の指導力・授業力を磨き続ける。 ・ユニバーサルデザインの視点 ・見通し=目標+内容+方法 <p>2.学習評価の基本的な考え方と事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習評価の現状における課題 ・学習評価の改善の基本方針 ・指導と評価の一体化を図るとは?
成果／活用策	<p>○ふり返り5分は確実に取る。確認ができました。普段から書くということ意識した取り組みが必要だと感じた。みんな(先生方)と話し合っ取り組んでいきたい。</p> <p>○メタ認知の促しと振り返りの充実、教師の子どもへの働きかけ(発問・指導)。①②③の子ども達への働きかけ方に気をつけてやっていきたい。まとめとふり返り、教師のルーティンとしてその時間を獲得し、どう書かせるかをしっかり持ってやっていきたい。</p> <p>○メタ認知の促しと振り返り。まとめ・ふり返りの時間確保が大事だと再認識しました。樺山先生の講話がオンラインで受けられて評価について良くわかりました。</p> <p>○評価についての文部科学省の考え方がよく分かる内容でした。</p> <p>○指導に生かす評価と記録に残す評価の説明が分かりやすく、イメージしやすかったです。3観点のもつ意義を踏まえた評価の考え方を具体的に解説されていたので、分かりやすかった。ふり返りの大切さ、メタ認知の重要性が再確認できた。</p> <p>○評価について、再確認すると同時に理解を深めることができた。今年度の県の重点項目も評価・改善であるため、今後の研究授業等における指導助言のひとつとしてお話できるようにする。</p> <p>○職員と共有しながら次年度に向けて校内でもしっかりと取り組んでいきたい。</p> <p>○指導と評価の一体化の意味や学習評価の基本的な考え方について、今後も研修を深め学校現場に還元していけるよう努力したい。</p> <p>○思ったより通信状態も良く、校内研修</p>

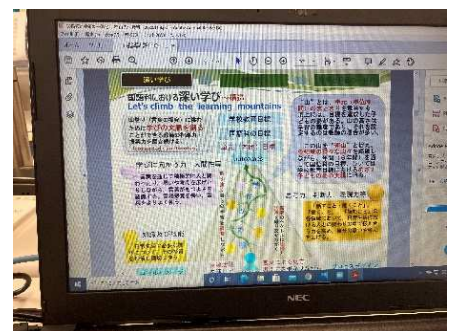


等で今後も活用したい。(最後に質問もできたので良かった。)

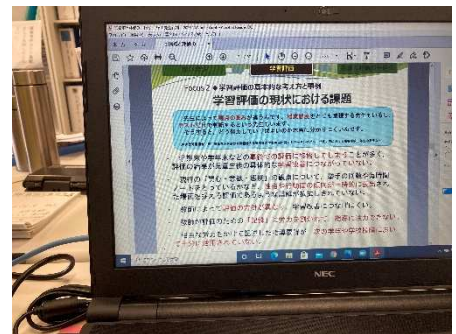
- 今回のオンライン研修会を本校の校内研修として位置づけて全職員で研修を実施することができた。
- 単元の最後だけではなく、途中(形成的評価)も行っていきたい。
- 「まとめ」として3Zを活用してみたいと思いました。
- こらからの評価のあり方について、ポイントを絞って進めていくことが大切だと感じた。3Zに積極的に取り組んでみたい。
- 授業の最後だけに技能テストだけで評価しようとしていたが、全授業内において、途中で経過と見取る時間も大事だと考えた。
- 深い学びについて、これまでも知識・技能の習得は重要であると言われ、量的なり質的なものが相まって深い学びにつながることを改めて確認できた。
- 指導と評価の一体化に向けた研修を進めていく中で得たもの、そしてこれから理解を深めていかなければならないことを自分自身が学んでいきたい。
- 単元目標の具現化、どのレベルまでを求めるのか、評価するのであれば、視点を明確にし、子どもへ与える。教師の見取りが少し乱暴であったことに気づかされた。教師自身が授業改善を行う上でメタ認知が働き、その大切さを感じればおのずと子どもの「振り返り」も大切にできると思う。
- 単元のまとまりにおける評価の計画や指導に生かす評価、記録に活かす評価について考え方が分かりやすかった。
- 今回の研修会は、学習評価の考え方について具体的な内容に迫ることができたので大変有意義な研修会でした。今後、全職員で共通理解、共通認識をもって評価の在り方について話し合う必要があると改めて思いました。自分事として、次年度に向けて「指導に生かす評価」、「記録に残す評価」の学校としてのしっかりとした設定と確認が必要なので、今後も研修等を重ねていきたいと思いました。
- メタ認知の促しと振り返りについて、校内研修等で共通理解し実践しなければいけないと感じた。説明責任を果すためにも校内で統一した評価の基本的な考え方をまとめる必要があり「指導に生かす評価」、「記録に残す評価」基本はCをBへ。
- 評価の一般的な話しはこれまで事務所や調査官が話していたことなので、今日は後半の深い学びやメタ認知についてとても学ぶことが多くあった。
- オンライということで、一方的受け身ではあったが、講話を聞き、資料を見ながら自分の頭の中で整理し考え、じっくり学ぶ理解につなげることができた。また、評価についても分かり易かったので、即活用し(授業や成績処理)していきたい。
- めあてとの整合の部分で「3Z」(時間・字数・条件)のまとめをこれから活用していきたい。
- 次年度からの評価(知識・技能・思考・表現・学びに向かう人間性)について、特にどのように評価するのかという部分がぼんやりしてる所があったが、少し分かった。
- 評価を総括際に教師間での認識を揃えるのを感じました。知識・思考・判断はすべてつながっているから(知A、思C、判C)などはありえない。
- 評価計画の見直しの視点が分かった。指導要領を読み、評価計画を作成していきたい。



- 今後、授業デザインを行う上で、メタ認知の視点を意識していくことができそうです。3Z、ふり返りの際に活用したい。
- 書くことが大事だと改めて感じた。ふり返りを自由ではなく、時間、字数、条件を設定していきたい。
- 出口から授業を見直していくということ。何をもち「深い学び」とするのか。授業で行ったことしか評価してはならない。教師は子どもの発言や記述のB基準の姿を明確にする必要がある。主体的に学習に取り組む態度の評価について。ふり返りの「3Z」（時間・条件・字数）の活用。など今回の研修でたくさんの学びがありました。
- メタ認知については、週案の公務等で紹介するなど資料を活用していきたいと思います。
- 指導に生かす評価、記録に残す評価について具体的に知ることができた。（単元計画の中での位置づけがすごく分かりやすかった）深い学びのイメージ化ができた。
- 教師が何をもち「深い学び」と捉えるのかをしっかりと考えることの大切さを改めて感じた。ゴールのイメージを子ども達と共有しながら互いに見通しをもち、山の頂上を目指していきたい。1時間ごとの評価を生かし授業改善を図っていきたい。
- まとめ・ふり返り（3Z「時間・字数・条件」を意識させ、ふり返りの時間をつくっていききたい。
- 単元計画を児童と共に立て、ゴールをイメージさせていくことの大切さや指導に生かす評価、記録に残す評価について詳しく知ることができ実践へとつなげていきたい。
- 算数のふり返りについて、3Z（時間・字数・条件）を心がけ取り入れていきたい。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価イメージをもつことができました。
- 教師が子どもに指導しないと評価はできない。単元の出口での子どもの姿を具体的にクリアに描くこと。評価するのは、結果だけではなく課程からも見取ること。
- 出口を見通して指導の在り方を考え、評価と一体としてふり返りやまとめをもつこと。そして、「書く」技術や能力を鍛えるためには社会や試験で点数として出る時にきちんと本人の書いたことが認められるように、将来を見据える「ふり返り」の大切さをどう考えるべきかなど学ぶことができました。
- まとめ・ふり返り（3Z「時間・字数・条件」を意識させ、ふり返りの時間をつくっていききたい。
- 単元計画を児童と共に立て、ゴールをイメージさせていくことの大切さや指導に生かす評価、記録に残す評価について詳しく知ることができ実践へとつなげていきたい。
- 算数のふり返りについて、3Z（時間・字数・条件）を心がけ取り入れていきたい。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価イメージをもつことができました。
- 教師が子どもに指導しないと評価はできない。単元の出口での子どもの姿を具体的にクリアに描くこと。評価するのは、結果だけではなく課程からも見取ること。
- 出口を見通して指導の在り方を考え、評価と一体としてふり返りやまとめをもつこと。そして、「書く」技術や能力を鍛えるためには社会や試験で点数として出る時にきちんと本人の書いたことが認められるように、将来を見据える「ふり返り」の大切さをどう考えるべきか



	<p>など学ぶことができました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○以前にも校内研で評価に関する研修を行ったが、「指導に生かす評価」、「記録に残す評価」について講話をしていただき、より理解を深めることができた。 ○授業参観後の先生方への指導助言に活用したい。 ○「評価のための評価はいらない」ということが、これまで校内研修等で話した内容だったので、とても参考になった。働き方改革、授業改善へと繋いでいきたい。 ○評価の場面や子どもの姿を見取るB基準の評価の具体的な指標（ルーブリック評価）を持つこと、その手立て、指導（示範・教示）が見通せていることが子どもと創る深い学びにつながっているということが分かった。
感想／要望	<ul style="list-style-type: none"> ○樺山先生の研修を受講できてラッキーでした。これまでなかなか受講できず、学びの山の資料をもう少し読み込みたいと思った。 ○記述問題に対する対策、2倍、3倍と書かせないといけないことや、ただ自由に書かせることはダメ、子ども達を枠組みの中で書かせる（時間・字数）をこれからやっていきたい。 ○今まで「ふり返り」の難しさを課題として持っていましたが、樺山先生のお話で授業を実際におこなってみたいと思いました。 ○とても分かりやすく、ためになる内容でした。これから評価に当たる先生方にとっては大変参考になったと思います。できれば、もっと時間をかけ2～3回に分けてじっくりと聞いてみたかったです。これからも、やんばるをよろしくお願いします。 ○ふり返りの与え方によって「粘り強さ」、「自己調整力」両方を見取ることができること。 ○「評価のための評価」、「指導していないものは評価できない」など、何度か研修会で聞いたことのあるフレーズですが、改めて今日の研修を聞いて評価についての学習が必要であると感じた。 ○現場のことを踏まえたとても有意義な研修でした。「指導と評価」の仕組みをつくりあげることの大変さ、壮大さを感じつつ、目の前にいる子ども達のために日々の授業改善と合せて考え取り組んでいきたいです。貴重な研修機会を設けてくださり、ありがとうございました。 ○評価の観点で、知識・技能を駆使して学びに向かうことが関心意欲であり、互いにリンクしているということ。（今まで、情状酌量的な考えであったため。） ○「深い学び」とは、深まった事実を量的に捉えることが重要である。学びの全体を通した内面的な成果や課題を振り返り、自分の言葉で綴るといったメタ認知が重要であるということ。 ○指導に生かす評価を行う「C」→「B」にしていくことが大切な仕事だと感じました。評価の方法等についてとても勉強になりました。 ○「教えたこと（指導したこと）を評価する」という言葉が特に印象に残っています。 ○記述について、そこまで書かないとだめなのか・・・というくらいのハードルの高さ。そこに向けて指導していくことが求められる。 ○どのような場面でも「モニタリング」と「コントロール」は大事にできると感じました。生徒に伝えることで、今後の生徒の学習や生



活に活かされると思いました。

- 深い学びが知識の量・質に関連することが印象的でした。
- 深い学びは忘れない、はがれない、指導してないことは評価できない。まとめ、ふり返りの3Z（時間・字数・条件）
- 「書くこと」に課題があるならば、教師がまず取り組む、3Zの条件は、どの教科でも意識的に取り組めるものだと感じた。主事として具体を示せるよう、すぐに動きたいです。
- 樺山先生が「国の考え方」をしっかりと解説してくださいつつ、自信の考えをおり交ぜてくださったので、「意図」がよく伝わったと思う。
- ゴール（出口）から授業を考える。ユニバーサルデザインの視点を持つ。メタ認知能力の促しと振り返りの充実。問いに対する答え（考え）を（まとめとして）書くための3Z（時間・字数・条件）の意図的な仕掛け、取組み等、新学習指導要領に迫る「深い学び」へのヒントをたくさん学ばさせていただきました。こどもの言葉で授業を創ることができるよう研修会、研究授業等に励んでいきたいと思えます。
- 本校においても自分の考えを述べたり、書くことが苦手な生徒が多いことが課題である。3Zを行ったり、時間や字数を決めて粘り強く取り組む必要がある。めあてに対するふり返し、最後のまとめについては共通実践の必要あり。
- 校内研で、いかに言葉の質を高めていくか、という課題が出たところです。樺山先生のおっしゃった3Zプラス主体的に学習に取り組む態度のみとり等、これまでどうしたらなどと思っていたことがスッキリとしました。
- めあてと振り返りの重要性を改めて確認することができて良かった。常に3Zを意識した振り返りを心がけ、同時に子ども達の書く力も高めさせていけるよう日々の実践に努めていかなければならないと感じさせられました。
- 「深い学び」というものが正直あまり分かっていませんでした。新規の知識をどれだけ増大していくか、それが出来なかったのかを量的に捉えることが重要というのが分かりました。その中で、主体的・対話的でも深い学びが無ければつながらないのだと思いました。ラーニングマウンテンに対するために社会でも他の教科につなげられる深い学びで授業実践を意識していけたらと思いました。
- 毎時間の授業において記録に残すことが大事、困り感を感じている生徒には具体的に指示・サポートする、授業の最後にまとめを5分程度ぜひ取り入れるよう。
- 初めてのオンライン研修でした。機械操作等、一人では難しそうだなと感じました。
- メタ認知の重要性を感じたのでもう少し深く調べてみたいと思いました。
- 評価については、「C」の生徒をどうやって「B」にしていくかを念頭に置いていくことに改めて、これまでの実践を継続していきながら「質的な深い学び」を研究していきたいと感じました。
- これまで「主体的に学習に取り組む態度」のグラフの読み取り方がいまいち分からなかったが、講話を聞いて捉え方（生徒像）がイメージできた。
- 生徒の深い学びを見取る力が大事であることが改めて感じさせられました。そこからBの子をCへ（指導に生かす評価）形成的評価を基に全ての時間ではなく、観点別のまとまりで捉えていくというプロセスをしっかりとしていきたいと思う。
- 今回の研修で、学習ひょうかには「記録に残す評価」、「指導に活かす評価」があり、授業をしていく上で、この2つの評価を計画的に行わなければいけないということを改めて考えさせられました。また、丁寧に評価していくことで、児童の学習状況を見

取ることができ、それに合わせた授業改善も行えると思えました。主体的に学習に取り組む態度の評価についてもこれからさらに学んでいかなければいけないと思えました。

- B基準のレベルがとても高いため、論理的に考えたことをどのように表現させるか―何をもちいてB基準とするのかを学年で確認し、つけたい力を意識しながら授業改善する必要があると感じました。
- 指導と評価の一体化について、これまでの自分の実践、自校の実態に重ねながら研修会に参加することができました。単元や一単位時間の出口において求める具体的な子どもの姿をクリアーにしながら授業改善に努めていきたいです。
- 「沖縄の子ども達は書くことが苦手である。負荷をかけて、甘やかさずしっかり書かせる」その通りだと感じた。枠組みの中できちんと書かせることの大切さを改めて感じた。3Zを実践していきたい。今回の研修はとても充実したものだだった。多くの学びを実践に生かしていきたい。
- 指導と評価の一体化（指導したことを評価する→指導していないことは評価しない。単元の出口において求める具体的な子どもの姿をクリアーに描くこと。
- 「深い学び」について、具体的な実践や子どもの姿をイメージし、そこでつける力は何かを改めて学び授業改善に努めていきたいと感じた。
- 「何も指導していないことは評価しない」、「出口から指導を考える」など、評価する上で重要なキーワードを確認することができました。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価は粘り強く学習に取り組む態度、自ら学習を調整しようとする態度と2つの点から見取ることができるということ。
- 有識者会議の際、高校生から”何を頑張るべきかわからない”という声があり、めあてや出口、Goalの可視化がされたことを知り驚きました。何を学ぶのかを学習者が意識することで、より深く学ぶことができ記憶にも残り、また、さらにふり返りやまとめを持つことでどうすべきか自分の成長はどこにあったのかを、また次の勉強に活かせることができるというメタ認知の捉え方が印象に残りました。
- オンラインでの研修会は職場に居ながら他の先生方と一緒に受けられるので、とても良い取り組みだと思えました。チャットを利用したのやり取りもおもしろかったです。
- 地区の課題である不登校への対応についての研修が必要かと思えます。また、特別支援学級が急速に増えていますが、そこへ送っている児童生徒は本当に該当するのか疑問もあります。教室で扱いにくければ情緒生涯ということになってはいないでしょうか。マルチリトメント、愛着生涯などについて考えているのでしょうか。そういう気になる子についての判断、対応などについて研修が必要かと思えます。琉球大学のインチャイルドは、嘉数中学校での成果もある。学んでみてはどうでしょうか。
- たいへん有意義な研修となりました。後半の直接の質疑も盛り上がっていたように感じました。ホストの方で、グルーピングをし、司会を割り当て、それを共有しながら質問を受けるという形はいかがでしょうか。
- 講義形式の研修であれば、オンライン研修のメリットがとても生かせると思う。研修の目的により、今後もぜひオンライン研修を継続してほしい。
- 授業の都合により参加する先生が少なかったですが、職員全員に資料を配布（50名）、職員室内でプロジェクターを活用して音声を流しました。
- インクルーシブ教育についての研修。

- 道徳の評価について。
- 今回は、深い学びの視点からの授業改善でしたが、次回は、道徳についての評価方法について研修を要望します。
- Zoomを使った研修は初めてであったが、今後、このような形での研修が増えてくると感じた。現場においても Zoom 等の活用場面があるかと思うので、積極的に活用に取り組んでいきたい。
- 有意義な研修をいつもありがとうございます。現場、行政共々、実践に活かせる研修を今後もよろしく願い致します。
- いつも実り多き研修をありがとうございます。
- 今回のように著名な方の講演会は、それぞれのグループで一緒に見て協議をフランクに行えるので、もち方として（移動がないため）今後はこのような形の講演会がいいと思います。
- 今回の研修、時間が短かったのは残念でした。もし第2弾を予定しているのであれば、今回みたいな研修会（Z00m）を実施してほしい。有意義な研修会をありがとうございます。
- オンライン研修も良いと思う。今後ともよろしく願います。
- コロナ渦では有効な手段ですが、実際始まってからもうまくつながらなかったり、音声途切れたり、やはり目の前で講話を聞きたかったです。
- オンラインはあまり良いと思わなかった。講話だけなら録画してほしい。
- 技能教科の家庭学習や「まとめ」、「評価」について。
- 評価に関する内容をまた聞きたいです。（今日詳しく聞けなかった内容など）。
- 主体的に学習に取り組む態度の具体的な評価場面や見取りの仕方を研修したい。
- 貴重な研修会を開催していただきありがとうございました。
- ①評価→指導案作成を例にした授業づくり②特別支援→VPLについて（具体的実践例を基に）③道徳の評価について④日常的に実践できるプログラミング教育（アンブレラも含めた実践）。
- プログラミング教育についての実践。
- 配信された動画を何度か見直せるようにできるとありがたい（今回、授業で見られない職員がいた）例えば一週間は繰り返し見られるなど・・・。
- オンライン研修会、学校で受けられること。授業や帰りの会をして参加できることが魅力的だと思いました。（参加しやすいです）
- 活動や体感させる（具体物操作など）算数の時間で”数の感覚”を身につけさせるために様々な話し合い活動をもちます。その際の効果や留意点や実際に身体を使って行うゲームなどがあれば教えてほしいです。（導入や結末で定着しているかを見る際に行える簡単なものだとありがたいです。
- 質問等を先に受けつけておくと良いと思った。
- オンライン研修会でも双方向で、講師の先生や他の受講者につながれると実感できました。今回の学びをこれからにつなげたい。

<アンケートの結果>

目標参加者数	100 人	参加者	186 人	参加率 182% 参加率=目標参加数÷参加数
アンケート回収数	41 件	回収率	22%	回収率=回収数÷参加者数 (%)

アンケート項目	評価 4		評価 3	
	研修の時間について	適当であった	24 人(58.5%)	まあまあ適切であった
興味を引く研修内容か	非常に良かった	24 人(58.5%)	良かった	16 人(39%)
今後の教育活動に活か せそうですか	非常に活かそう	24 人(58.5%)	まあまあ活かそう	17 人(41.5%)

※評価 2、評価 1 は極少数であった。